



地震・台風が心配です。しっかり備えましょう！

記録的な猛暑が続きますが、夜には虫の声も聞こえ始めました。

これから作付けが始まる作物としては、アブラナ科(白菜、大根など)、ユリ科野菜(玉ねぎ、にんにく等)などがあります。それらの作物に欠かせない微量元素の一つにホウ素があります。今回はそのホウ素のお話です。

ホウ素についておさらいしましょう



ポイント!

ホウ素は作物に必要な不可欠な必須栄養素です。カルシウムと同様に作物を強く育て品質を高めます。廃棄品率の軽減、秀品率の向上を通じて生産者様の収益にも貢献することから、主産地では特に注目されているようです。

ホウ素が不足すると成長点(新葉、果実表皮、根の肥大部)に障害が発生します。特にアブラナ科野菜では必要量が多く、欠乏症が出やすいので要注意です。

欠乏時はホウ砂(※1)や、ホウ素入り肥料または微量元素資材(弊社の土づくり資材)(※2)を与える対策が有効です。

(※1 : 10a当たり 一般野菜で 1kg、果菜類で 2~4kg)

(※2 : バイシリカ、ニューエース、G&G)

なお、欠乏時の緊急的な対策としては、ホウ砂 0.3%水溶液を数回葉面散布すると良いでしょう。(濃すぎると過剰害リスクあり)

注意: ホウ素は過剰害も出やすいため、その施用量には注意が必要です。土壌分析結果がある場合は、土壌中の有効態ホウ素濃度を好適範囲とされる 0.8~2ppmに近づけるよう加減しましょう。一般的には作物や土壌特性を考慮した、各地方の推奨施用量があればそれに従うのが良いと思います。

ホウ素が効きにくい条件とその対策

【効きにくい条件】	対策例
・高温乾燥 (<u>成長期の水不足</u>)	・ <u>適正な灌水の実施、根張りの良い土作り</u> 総合的な改善が必要です。ご相談ください。
・高い土壌pH (<u>アルカリ土壌</u>)	・ <u>適正なpH管理</u> 鶏糞、石灰窒素、石灰資材の使いすぎ注意 石灰(カルシウム)とは拮抗作用があります
・ <u>欠乏圃場</u> (連作地、砂質土壌)	・「 <u>適量を継続する施肥</u> 」の実施 流亡しやすいのに、過剰害も心配なため

ホウ素欠乏症は連作地を除けば、効きやすい条件に導くことで抑えられます。

お困りの際には一度ご相談ください。 今月も最後までお読みいただきありがとうございました。

お問合せは

〒437-1416 静岡県掛川市三俣 902

川口肥料株式会社 松下

TEL 0537-72-2663

Fax 0537-72-4735



川口肥料 HP



松下ライン